

## 玖島小学校長 桂南知子 さん



**大きな自信をもって、  
玖島小のことを  
伝えていってほしい**

「閉校を迎える今年度、玖島小学校では児童と教職員、地域の皆さんが一丸となって一年を過ごしてきました。」と切り出したのは、桂校長。  
「この学校の良さは一人一人の子どもたちが自分の役割を理解して、それを果たそうとするところですよ」と話します。  
昨年四月には三年ぶりの一年生が入学。子どもたちは学年を超えて休憩時間を遊んで過

たり、学校行事を協力して行ったりとまさに一丸となって学校生活を送っています。  
「この一年、子どもたちはこれまで以上に地域のことを学んできました。自信をもってふるさと玖島を語る人になってもらいたい、そのような思いから元校長や元職員に学校の歴史などを教えてもらったり、地域の皆さんに玖島の歴史や文化を教えてもらったりする活動に力を入れてきました」と言います。  
また、統合に向け、友和小学校との交流事業を充実させてきました。

「交流事業の中で、友和小学校の児童に影絵劇を披露した後、感動した子どもたちからたくさん感想文が届きました。子どもたちが主体となって取り組んできたことが、同じ年代の子の心に響いたことは、大きな自信になったことでしょう。来年度からの友和小学校で自信をもって、玖島や玖島小学校のことを伝えてくれることを期待しています」。

「閉校式には、保護者だけでなく、卒業生、地域の皆さん、多くの人に集まってもらい、この学び舎を旅立つ子どもたちの背中を押してやってほしいですね」と語ってくれました。

## 04 メッセージ。

my precious school

最後の児童を送り出す、両校の先生たち。  
この1年の取り組みとここを巣立つ子どもたちへのメッセージを聞きました。

## 浅原小学校長 新見 忠昭 さん



**クラスでは  
欠かすことの  
できない存在に！。**

もって、学校全体でこの1年間を過ごしてきました」と振り返ります。  
現在、校舎に掲げる横断幕には、「最高のフィナーレにしよう」というスローガンが書かれています。このスローガンは児童たちの中から提案されたもの。まさに今、最高の集大成を迎えるための準備が行われています。  
「ここに住む人は小学校に縁のある方が多いです。最近では児童数の減少にもない学校単独で行事を行うことが難しいこともありました。そんなとき、地域の惜しみない協力があってからこそ続けることができたものもあります。学校の運営は保護者、地域の皆さんの力があつたからこそ。まずは感謝の気持ちを伝えたいです」。

「浅原に来たときから、この土地が好きになりました。自然豊かで子どもたちも同じ保育園・小学校と育ち、仲間意識も強いです」と話すのは3年前に浅原小学校に赴任した新見校長。  
「私自身、閉校が残念であり、寂しいという気持ちはあります。しかし、保護者の決断と、ここから新しい環境に向かう子どもたちの背中を押すため、新たなスタートを切るという目標を

最後に新見校長はここを巣立つ子どもたちに向け、「どこにいても原点は浅原です。まずは、友達を作り新しい環境を楽しんでほしいです。ここで培ってきた力を津田小学校で発揮し、クラスでは欠かすことのできない存在になることを期待しています。『浅原の子が津田に来て学校がより楽しくなった』と言ってもらえるような人になっていってください」と力強く話してくれました。

my precious school

## 地域の未来のために

小中学校は子どもたちの学び舎であるとともに、地域の拠点。しかし、児童減少の波は玖島・浅原小学校に限らず、日本全国に押し寄せています。  
閉校後、地域の拠点である「学校」をいかに活用するか。今、その未来を考えるとときがきています。

小学校は、地域の人と人をつなぐ大切な糸のひとつであると思っています。同じ小学校の出身という三世代をつなぐ縦の糸、子どもたちと地域の大人たちをつなぐ横の糸という具合ですね。

小学校跡地の活用をどうするのかは大きな課題です。しかし、通院や買い物のための移動手段の確保、田んぼのあぜの草刈や耕作放棄地など、今でも中山間地域は多くの課題を抱えています。

地域の課題に寄り添いながら、地域の資源や魅力を生かした都市部との交流、情報発信による交流人口の増加など、地域が元気になる動きも大切だと思っています。

両地区では、本年度から広島修道大学との連携を始めています。来年度は、地域起こしのために何ができるかなどを地域、市職員と大学とが一緒になって対話を重ね、できるところから取り組みます。

このような、大学や両地区ご出身の方など、地域外の皆さんからの応援も受けながら、これらを新しいつながりの糸として紡ぎ、みんなの合わせ技で玖島・浅原地区での暮らしの質を維持、向上させるよう、地域づくりの動きを作り出していきたくと思っています。

幅広い世代が参加できる跡地の活用協議を進めていきます  
みんなの合わせ技で地域づくりの動きを作り出していきます

この1年間、玖島・浅原地区では、各小学校の閉校記念事業を思い出深いものにするため、何回も会合を重ねてられました。

その会合に参加する中、皆さんの前向きで積極的な意見を重ねる姿から、改めて皆さんの小学校に対する思い、また、絆の強さを知ることができました。

140年もの歴史があり、皆さんの思いが詰った小学校跡地の活用を来年度から本格的に話を進めていきます。

今回閉校記念事業に関わってきた人はもちろん、幅広い世代が参加できるように地区の方との協議を進めていく予定です。

それぞれの地区は、高齢化、人口の減少などさまざまな課題を抱えています。

将来の地区の活性化を考える中、小学校の跡地をどう活用していくかの話が活発にできればと考えています。

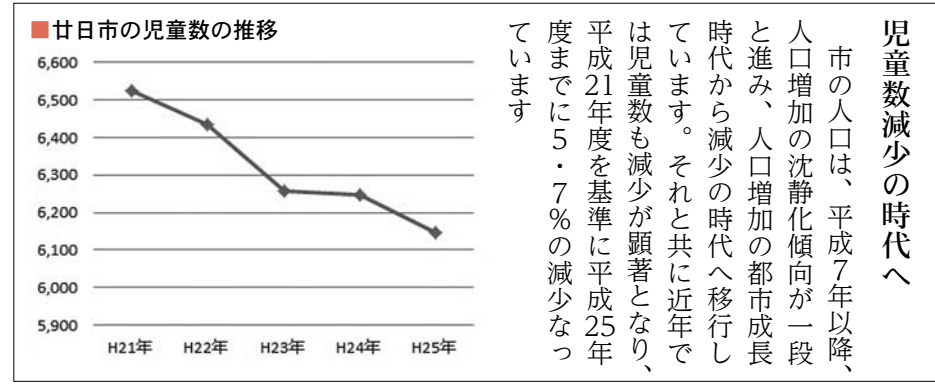
その際には、支所はもちろん市民センターの職員、また、昨年度途中からそれぞれの市民センターに配置された地域支援員も地域の皆さんとともに、将来の玖島・浅原地区を考えていきたいと思



地域政策課  
中村 満 政策監



佐伯支所地域づくりグループ  
小田 和歳 リーダー



### 全国の閉校後の校舎活用

公立学校は、少子化などが原因で過去10年間で2000校以上が閉校になっています。各自治体では、その閉校となった学校施設を有効に活用しようという取り組みが行われており、地域の活性化や都市と農村漁村との交流促進、創業の支援などを担う施設として生まれ変わっています。

### 閉校後に現存する建物の主な活用用途（平成23年調査）

施設	件数
社会体育施設	802
公民館・資料館など	754
福祉施設医療施設など	337
体験交流施設など	300
庁舎など	291
企業・創業支援施設など	181
住宅	32
大学施設	25